

## ことばを育てるヒント … 「話をするために必要な力」

今回と次回に分けて「話をするために必要な力」についてご紹介します。

ついつい「言えることば」の方に気をとられがちですが、その前の「ことばの基礎となる力」が大切になります。全部で5つある中で、今回は下記の3つをご紹介します。

### ① 聴 力：いろいろな音や声に気付いていますか？

【あそび】大人が動物の鳴きマネをして子どもが当てる、歌に合わせて手遊びをするなど。

（例：「山の音楽家」「ひげじいさん」の歌など）中耳炎や耳垢で聞こえにくい状態が続くと、ことばにも影響がでてくる場合があります。耳の健康を保つことも大切です！

### ② 言語理解：話かけられている内容がわかりますか？（ことばの理解）。

【あそび】おしゃべりする前であれば、「いないいないばあして」や、「お人形さんにりんご食べさせて」など、大人のことばを聞いて、動作で応える遊びなど。

### ③ 対人関係：欲しいものがあるときや困ったときに、大人を頼りますか？

【あそび】くすぐりあそびや追いかっこ・たかいたかいなど、物を使わず身体をダイナミックに使った楽しい遊びの中で、「もっと」「もう1回」と大人へ要求するなど。

参考文献：中川信子著 ぶどう社

## ～乳幼児期の育ちを考える～

### 『非認知能力を育てる』



非認知能力が育つ事によって学習の成果が現れると前回話しました。

日本最高峰と言われる大学に通う学生の保護者の話でよく聞くのは、勉強重視ではなく子どもが興味を持った事を応援し見守っていた事です。

- ・ 図鑑や本を用意することで子ども自ら疑問を解決し、探求心・知的好奇心を満たす。
- ・ 好きそうな玩具を用意することで、遊びこみ、やり抜く力・物事の理解を深める。

簡単なようですが、つい大人は結果を期待して割り込み、教えたくくなります。そこを子どもの力を信じて見守り、困ったときには手を差しのべられるようにしたいですね。

我が子がどう物事に向き合っているのか、その過程を見ていることで具体的に褒める事ができます。保育の現場も同様で、出来て褒められるのは当たり前。そうではない過程の部分で子どもを認めていきます。そうでないと褒められる子は決まってきませんか？

### 大人の役割

- ◎見守る・・・何に関心を寄せているのか、どう遊んでいるのかを観察してみましょう。次はこの玩具で遊んで欲しいというのが見えてきたり、気持ちの揺れに気づくでしょう。
- ◎具体的に褒める・・・「がんばったね」の中身を伝えることで、子どもは『見てくれている、そこが自分の強みなんだ』と自己肯定感を高め、意欲をもって粘り強く取り組んでいきます。

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなぎます。  
夢と希望もてる たからっこを  
応援します！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター  
〒665-8665 宝塚市東洋町1-1  
電話 0797-71-1141(市役所)  
0797-77-2132(直通)  
FAX 0797-71-1891  
E-mail m-takarazuka0289@city.takarazuka.lg.jp



★ 発達、就園・就学等の相談がありましたら、上記にご連絡ください。